

2017年9月10日 礼拝メッセージ

聖書：使徒の働き 9章1～19節

説教：あなたはどなたですか

はじめに

死からよみがえられたイエス・キリストが弟子たちに現れて下さったとき、こう言われました。「あなたがたはエルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。」そうして、天に上げられていきます。それから一週間経ち、人々が一つの家に集まって祈っていたときのことです。大きな音とともに天から聖霊が降り、その日多くの人たちが救われ、エルサレムに世界最初のキリストの教会が建てられていきました。

しかし、このことを苦々しく思っている人たちもいました。今日登場するサウロもその一人でした。彼は、ユダヤ教のなかでももっとも厳格なパリサイ派に属し、若いときにはエルサレムに留学し、ガマリエルという当時有名な指導者のもとで熱心に学び、律法を守ることで人間は救われるのだと信じていた人です。ところが、キリストを信じる者たちが現れ、人は行いによっては救いを得ることはできない、死からよみがえられたイエス・キリストを信じて救われるのだと説いているのを聞き、黙っていられなくなります。彼らは神の律法を軽んじ、この世を墮落させようとしているとんでもない人たちである。そんな彼らを地上から抹殺するのが自分の役目であると考え、かなり過激な行動に出て行きます。

そんなサウロが、今日の箇所を読むとわかるように、百八十度変えられてキリストを伝える者に変えられていきます。いったい彼に何が起こったのかを見て参ります。

1 サウロ

1) ダマスコ途上

ダマスコは今のシリアにある街で、エルサレムから直線距離でも二百 Km 以上離れています。当時からかなり大きな町で、人の往来が激しく、多くのユダヤ人が住んでいたと言われます。この街にもイエス・キリストのことが伝えられ、やがて教会が建てられていきました。サウロがわざわざ遠くにあるダマスコに行かなければと思うほど、ダマスコの教会の影響力が強くなっていたことを現しています。

2) 「サウロ、サウロ」

ダマスコにいるキリスト者たちを逮捕し、エルサレムに強制送還する。これがサウロの計画でした。かなり大規模な作戦ですから、おそらく数十人規模の宗教警察隊を編成して出かけたのだろうと思われる。大祭司から逮捕状を取り、意気揚々とダマスコに向かいます。目的地はもうすぐだというとき、事件が起きました。

3節から6節を読みます。「ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。彼が、「主よ。あなたはどなたですか」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。立ち上がって、町に入りなさい。そうすれば、あなたのしな

ければならないことが告げられるはずで
す。」

サウロは自分の身に何か起きたのか、突然
のことなので理解できません。気がつくとも
目は開いているのですが、なにも見えない。耳
だけははっきりと聞こえます。その耳に、「サ
ウロ、サウロ」と自分の名を呼ぶ者の声が聞
こえました。しかしだれが自分の名を呼んで
いるのか、まったくわからない。

3) 「主よ。あなたはどなたですか。」

思わず彼はこう問いかけます。「主よ。あ
なたはどなたですか。」

自分の名を呼ぶ方が、実は神の子であるイ
エス・キリストであるとはこのときはまだわ
からない。だから「あなたはどなたですか」
と尋ねます。ところが不思議なことにサウロ
は「主よ」と言っています。相手がだれかわ
からないのに、なぜ「主よ」と言うのでしょ
う。聞き慣れた人の声ではないのです。とに
かく今まで会ったこともない特別な方が自
分を呼んでいることだけはわかります。その
声をとおして、この方が聖なる方であること
が感じ取れます。それを神と呼ぶのかどうか
はわからない。とにかく「主よ」と呼びかけ
るのがふさわしいということはわかったと
いうことでしょう。

サウロの問いかけにイエスはこう答えら
れます。「わたしは、あなたが迫害している
イエスである。」

サウロがこれを聞き、驚きます。というの
は、サウロは教会を迫害してきたのです。キ
リストを信じる者たちを逮捕し、牢に投げ込
んできた。自分が迫害してきたのは、教会で
あり、キリスト者と呼ばれる人たちです。彼
らが信じていると言っているイエスを迫害

したつもりはまったくない。そもそもイエス
は、十字架で死んだはずなのです。キリスト
者は三日目に墓の穴からよみがえった、と盛
んに言っているけれど、あれは嘘やでつち上
げに決まっている。ところが今、何を聞いた
か。「わたしは、あなたが迫害しているイエ
スである」との声が聞こえる。死んだはずの
イエスが自分の名を呼ぶ。どう考えてもわか
らない。頭は混乱するばかり。目が見えなく
なり、真つ暗闇に突き落とされます。仲間
に手を引かれて、やっとの思いでダマスコに向
かいます。そんなサウロのところに遣わされ
ていくのが、次に登場するアナニヤです。

2 アナニヤ

1) ひどいことをしたサウロの所へ

イエスは、幻をとおしてダマスコに住むア
ナニヤに現れ、サウロのもとに行くようにと
語ります。アナニヤは非常に驚きます。すで
にダマスコの教会にもサウロのことは聞こ
えていました。彼は、エルサレムでキリスト
者を情け容赦なく逮捕し、牢に投げ込み、中
には殉教する者さえ出た。そのため多くの者
がエルサレムから逃げていかなければなら
なくなった。そのサウロが、ちかぢかダマス
コに乗り込んでくるという情報も伝わって
きた。サウロという名前を聞いただけで、み
な震え上がるくらいなのです。そんな彼の所
へ行きなさいというのですか。とても私は行
けません。アナニヤはそう答えます。当然だ
と思います。

2) 「行きなさい」

主はどう答えられたか。15、16節。「行
きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、
王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わた

しの選びの器です。彼がわたしの名のために、どんなに苦しまなければならないのかを、わたしは彼に示すつもりです。」

イエスはアナニヤを信頼し、神のご計画を明らかにします。二つある。一つ目。サウロは神が選んだ器である。器は中に何か入れて運ぶためにある。何を入れるのか。わたしの名、イエスの名を入れて伝える。異邦人や王たちに伝えるのがサウロの役割である。それが一つ目。そうかもしれません。でも、あのようキリスト者を苦しめた人間が、まるで何もなかったかのように、次の日からキリストを伝える者になる。あまりにも不公平な話ではないか。アナニヤは納得できません。

そこでイエスは二つ目のことを明らかにします。サウロは苦しみながらイエスの名を宣べ伝えることになる。だから、あなた行って励ましてやりなさい。

アナニヤは、ずっと思っていました。サウロささえいなくなれば、主のご計画はもっともっと前進するだろう。彼は自分たちの敵である。けれども、そんなサウロをも主は愛し、救おうとされることを知らされます。それだけではない、教会を迫害していた者さえも召して、苦しみながら教会のために遣わされていく。驚くべき神のご計画の前にアナニヤはひれ伏し、サウロをとこに出掛けます。

3 イエス・キリスト

1) 聖なる方に触れるとき

サウロは非常に優れた能力を持ち、パリサイ派のために一生懸命活動してきた人です。体が弱くなるとか、人の手を借りないと生きられない、そんな経験はしたことがない。そんな彼がある日突然見えなくなり、動けなくなる。これは非常に恐ろしい。いったい自分

はどうなるのか。どん底に突き落とされます。食事も喉を通らない。

そんな真つ暗闇の中で、彼は考えます。あのダマスコ途上で起きた不思議な出来事はいったい何であったのか。自分の耳は、はっきりと死んだはずのイエスの声を聞いた。それだけではない。すぐそばに誰かが立っている。その方は、心の深い所の何かに触れて下さった。なにが聖なるものが自分のいのちに触れて下さったのを感じ、思わず「主よ」と呼びかけた。そのことを忘れることはできません。なんどもなんども思い返します。

2) 「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」

主は語りました。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」そのことばを思い巡らす中で、次第に一つのこと気がついていきます。自分はこれまでいったい何をしてきたのか。イエスがよみがえられたなど語る者は世界の敵である、抹殺しなければならないと熱心に行動してきた。ところがもし私に語ってくださった方が本当にイエスであるならば、イエスは死からよみがえられたことになる。それは神にしかできないことです。

そればかりではない。意外なことを語った。「あなたはイエスを迫害してきたのだ。あなたは神のひとり子である方を苦しめてきたのだ。」まさかと思いました。自分こそ神を信じるものであり、そのために律法を守ることを熱心に追い求めてきたはずでした。ところがその熱心さが、逆に神を苦しめることとなります。ここで初めてサウロは自分の罪の深さに気がつきます。罪からきよめられるために律法を守るのだと言ってきたはずなの

に、神を苦しめ、罪を犯してしまった。こんな自分がどうしたら救われるのか。世界の土台が揺らぐような思いです。

そんな真っ暗闇の時間を過ごしていたとき、アナニヤが尋ねてきました。アナニヤが手を置くと、サウロの目が見えるようになります。肉の目が見えるようになっただけではありません。神のひとり子が死からよみがえられたことがはっきりとわかりました。イエスは死んだのだと決めつけてきた自分。そうやってイエスを苦しめてきた自分の罪を赦し、救ったことがはっきりと見えました。それだけではない、今度はイエスの名を宣べ伝える者になるようにと新しいのちを与えて召して下さる。その主の前にひれ伏し、洗礼を受けていきます。

3) 神と人が結びつく所

これがサウロが救われていく事情です。ここに書かれていることはかなり特殊なことも知れませんが、しかしサウロにも私たちにもあてはまる共通点があります。それを最後に考えます。

サウロはどのようにして神と出会ったか。サウロが「主よ。あなたはどなたですか」と尋ねたとき、主はなんと言われたか。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」

このことばが全てを表しています。これが、神のひとり子と私たちの関係です。これ以外にありません。私たちは主を迫害したのです。この方にひどいことをしたのです。その一点で、私たちは主と結ばれています。

みなさんは、この方にひどいことをしたという自覚がおありでしょうか。もしあるなら、あなたはイエスを救い主と受け入れる資格があります。あるいは、自分はそんなにひど

いことをしていないと言うのでしょうか。サウロもかつてそう思っていました。しかし聖なる方に会ったとき、自分がいかに罪深いものであるか、彼は気がついていきます。

主の十字架の前で私たちは何をしていたのか、あそこで何を叫んでいたのか。思い起こしたいと願います。主を十字架につけた者を救うために、主が十字架で苦しんでおられる。それはあなたのためである。

そのようにしてくださった主の御名をあげたいと願います。